

医療安全トピックス TOPICS

Vol.124

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部医療安全課 課長

「酸素ポンベの開栓の未確認」について

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、過去に取り上げた共有すべき事例や分析テーマの中から、特に周知すべき情報について、医療事故の発生予防・再発防止を促進することを目的に、医療安全情報を提供しています。医療安全情報は、ホームページに公表するとともに、全国の約6000医療機関にFAX配信を行っています。

本稿では、2020年11月に提供した医療安全情報No.168について紹介します。医療安全情報は、本事業のホームページ (<http://www.med-safe.jp/>) をご覧ください。

●医療安全情報 No.168 「酸素ポンベの開栓の未確認」について

医療安全情報No.168は、酸素ポンベを使用する際、酸素ポンベのバルブ（元栓）を開けていなかった事例を取り上げました。2016年1月から2020年9月までに5件の事例が報告されています。いずれも酸素ポンベを開栓しないまま圧力調整器の流量設定ダイヤルだけを回し、患者に酸素を投与していなかった事例です（図表1）。

●酸素流量計について

酸素流量計は、酸素を流出すると浮子（フロート）

が移動して流量を合わせるタイプから、ダイヤルを回して酸素の流量を設定するタイプに替わってきています。前者の場合、酸素を流出させるとフロートが動くため、酸素を投与していることが視覚で確認できましたが、後者はダイヤルを回すだけのため、酸素の流出を目で確認できず、流出音などで判断することが多いです。そのため、圧力計内に以前使用した酸素が残っていると、酸素ポンベのバルブ（元栓）が閉まっても一瞬酸素が流出した音がするため、酸素を投与できていないことに気づきにくい状況があります。

●酸素ポンベのバルブが開栓していなかった事例について

医療安全情報No.168に掲載した事例の1つを紹介します。

看護師は、酸素3L/分投与中の患者を血管造影室に搬送するために酸素ポンベを準備し、流量設定ダイヤルを操作して酸素の流出を確認後、バルブ（元栓）を閉めた。その際、圧力調整器に残った酸素を放出しなかったため、圧力計の表示値は10MPaのままであった。出棟する際、流量設定ダイヤルを3L/分に合わせると酸素が出る音が聞こえたため、開栓していると思い込んだ。血管造影室に移動中、患者のSpO₂値が71%に低下した。酸素ポンベを